

テーマ：『 子どもの思いや気づきを大切にし、科学的な思考力を養う学習 』

福岡県 宗像市立 東郷小学校

Tel. 0940-36-2064 担 当 高橋 茂

者：



【環境委員会によるコンポストを用いた堆肥づくり】



【2年 生活科 八並川水ぞくかんをつくろう】



【6年理科 堆肥を用いた畑づくりと育った野菜達】



【環境委員会による校内の樹木に樹名板の設置】

■ 実践内容：

東郷小学校では、身近な自然環境と直接かかわり、その中で生まれる気づきや思いを大切にしながら、科学的な思考力を養い自然環境を保全する実践的態度の育成を目指しています。校内研究も生活科・理科を重点領域として「科学」「環境問題」に対する関心や思考・判断、理解を深める指導法や教育課程の開発を進めていきました。生活科学習では花や野菜の栽培、身近な川の生き物調べを行いました。理科学習では乾電池・光電池、ものの温まり方の学習を通してエネルギーについて学びました。水溶液の性質を調べたり、身近な川の水質調査を行ったりしました。さらに児童主体の活動として展開できるように、児童会が中心となって次のような取り組みも進めてきました。

- 循環型リサイクルの学びとしてコンポスト容器による堆肥づくりと、その堆肥を用いた栽培活動
- 委員会活動を中心とした動物の飼育・植物の栽培，自然観察・実験
- 樹名板（木の名前や説明を記したもの）の設置

等

■ 実践成果：

生活科・理科を研究の重点領域として日常の授業から子どもの思いや気づきを大切にした授業づくりを取り組んだり、児童会を中心とした堆肥づくり，飼育・栽培活動を行ったりしたことは、主体的に学ぶ子どもの意欲や、身近な環境を大切にしようとする心情を高めることに有効であったと考えます。

■ 実践ポイント：

子ども達の主体的な活動を第一に考え、活動の時間を十分に保障しました。子ども達が「分かった」「できた」「学び合う喜び」「共に高まる喜び」を味わわせることが生活科・理科学習の授業作りのポイントです。

子ども達の環境保全への心情が日常生活に生かせるよう教師の声かけ見届けが重要であると思います。